

## 令和5年度 第2回 南幌町総合教育会議次第

と き 令和6年1月19日（金）

午後3時00分

ところ 南幌町生涯学習センター「ぼろろ」

3階会議室

1 開 会

2 挨拶 南幌町長 大崎 貞二

3 協議事項

(1) 小中一貫教育について

(2) その他

4 その他

5 閉 会

# 南幌町小中一貫教育基本方針（案）

令和6年3月

北海道南幌町教育委員会

## 目 次

1	はじめに	1
2	国の動向	1
3	南幌町のこれまでの取組	3
4	南幌町の小中一貫教育について	
	（1）小中一貫教育の目的	3
	（2）目指す児童生徒像	3
	（3）目指す児童生徒像の具現化に向けた取組	4
	（4）目指す児童生徒像の実現に向けた学校・教職員像 の具現化に向けた取組	5
	（5）小中一貫教育と地域のつながり	5
	（6）小中一貫教育を推進する学校区	6
	（7）小中一貫教育を推進する学校の形態	6
5	教育委員会の役割	6

## 1 はじめに

児童生徒を取り巻く状況は、現在の小学校6年、中学校3年という学年段階の区切りが導入された昭和20年代前半と比較すると、身長や体重の伸びなどの身体的発達に2年程度早まっており、また、児童が小学校から中学校へ進学する際にいじめや不登校が増加するなど、新しい環境での学習や生活に不適應を起こすいわゆる「中1ギャップ」が顕在化しています。

加えて平成20年に改定された学習指導要領により、量的・質的に充実された教育内容や学習活動に対して、小学校と中学校の教員が連携して、小学校高学年での専門的な指導の充実や児童生徒のつまずきやすい学習内容について、長期的な視点に立った指導などに取り組むことの重要性も増しています。

## 2 国の動向

このような状況を受け、平成26年の中央教育審議会において、①教育基本法、学校教育法の改正による義務教育の目的・目標規定の新設、②近年の教育内容の量的・質的充実への対応、③児童生徒の発達の早期化等に係る現象、④中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、「中1ギャップ」への対応、⑤少子化等に伴う学校の社会性育成機能の強化の必要性を背景として、小中一貫教育の総合的な推進方策が示されました。

平成27年には学校教育法等の一部を改正する法律が公布され、学校教育制度の多様化と弾力化を推進するため、小中一貫教育を実施する義務教育学校が創設されるとともに、組織上独立した小学校と中学校が義務教育学校に準じた形で一貫した教育を実施する小中一貫型小学校・中学校も制度化されました。

小中一貫教育の制度的基盤が整備されたことにより、小・中学校がともに義務教育の一環を形成する学校として、学習指導や生徒指導において協力するとい

う観点から、小・中学校の教職員が義務教育9年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育活動に取り組む機運が高まり、各地域の実情に応じた小中一貫教育の実践が増加してきています。

#### ■義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校

##### 【義務教育学校】

1人の校長の下、1つの教職員組織が置かれ、義務教育9年間の学校教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。

##### 【小中一貫型小学校・中学校】

既存の小学校及び中学校の基本的な枠組みは残したまま、義務教育学校に準じた形で9年間の教育目標を設定し、9年間の系統性を確保した教育課程を編成・実施する学校。

#### ■小・中一貫教育の施設形態

##### 【施設一体型】

同一の校舎内で、小学校1年生から中学校3年生までが生活し、9年間の系統的な教育活動を行う

##### 【施設隣接型】

同一敷地内の隣接した校舎を利用し、教職員や児童生徒の交流を深めながら、9年間の系統的な教育活動を行う

##### 【施設分離型】

中学校とその通学区域内の小学校(複数の場合も)とで工夫しながら、9年間の系統的な教育活動を行う

### 3 南幌町のこれまでの取組

南幌町では、ともに学び、考える力を育て、豊かな心を育む生涯学習を進めるとともに、家庭や学校への教育支援の充実を図り、「地域に根ざした教育と文化の高いまち」を基本目標に、平成29年度に「南幌町教育大綱」を策定しました。

令和4年度の「南幌町教育大綱」改正時には、新学習指導要領のもと子どもたちが小・中学校9年間の義務教育を通じた、主体的、対話的で深い学びの実現のため、小中一貫教育の推進に着手することとしました。

このことから、小学校・中学校の教員の相互派遣や児童生徒の交流のさらなる推進を図るとともに、令和7年度小中一貫教育の導入に向けて、本町独自の小中一貫教育の在り方について「南幌町小中一貫教育検討委員会」を設置し議論してきました。

### 4 南幌町の小中一貫教育について

#### (1) 小中一貫教育の目的

学力と体力の向上や、ふるさと南幌を大切に想う心を育てる教育活動を実践するため、家庭・地域と連携した学校経営などを柱とし「9年間を通じた系統的・継続的な教育活動や小学校から中学校への円滑な接続をめざす取組を通して、「中1ギャップ」の未然防止とともに、児童生徒一人ひとりの「知」「徳」「体」のバランスのとれた生きる力を育む教育」を目指します。

(2) 目指す児童生徒像

学ぶ楽しさを知り 仲間と高め合い 夢をふくらませる 南幌の子

○学ぶ楽しさを知り

「教え育てる」から「学び育つ」へ

○仲間と高め合い

コミュニケーション能力を高め、多様性を尊重し合う生き方を学ぶ

○夢をふくらませる

人が人とのつながり、人が社会とつながる双方向の絆づくり

○南幌の子

子どもも大人も共に育ち合う南幌

(3) 目指す児童生徒像の具現化に向けた取組

「知」～確かな学力の定着

「自ら学ぶ力を身につけ、生き生き学び合い互いを高め合う南幌の子」

- ◆自ら学ぶ力の育成（家庭学習）
- ◆基礎学力の育成（読む・書く・計算する）
- ◆課題を解決する力の育成（総合的な学習の時間・ICTの活用）

「徳」～豊かな心の育成

「自己の良さを知り、広い視野で他者を認め合う南幌の子」

- ◆小中教育活動交流
- ◆自己肯定感の向上とコミュニケーション能力の育成
- ◆いじめ・不登校0への取組

「体」～体力の向上・健康の保持増進

「健康の大切さを知り自分に合った運動を探し、仲間といっしょに高

め合いながら運動を楽しめる南幌の子」

- ◆小中が一体となった体力向上の取組
- ◆保健情報の共有と生活改善の取組
- ◆健康の保持増進に向けた取組

(4) 目指す児童生徒像の実現に向けた学校・教職員像の取組

「学校力」～職員「つながり」の強化

「小中教職員が連携強化に向けてチームで取組む学校」

- ◆組織の充実と活性化
- ◆教育の質の向上と指導の充実

「教師力」～研修「つながり」の深化

「子どもの声から思考が広がり、学び合い、自らの考えが深まる授業」

- ◆研究主題を一本化した授業力向上研修
- ◆研修の充実と専門性の向上

「連携力」～小中の「つながり」の拡充

「9年間を見通した児童生徒の育成に組織的に取組む学校」

- ◆計画的な小中一貫教育の推進
- ◆9年間を見通した児童生徒理解

(5) 小中一貫教育と地域とのつながり

「基盤」～家庭・地域との「つながり」の強化

「コミュニティ・スクール制度を基盤とした保護者・地域住民・関係機

関との連携・協働」

- ◆家庭・地域・学校が一体となった教育活動の実践



(6) 小中一貫教育を推進する学校区

南幌町は小学校1校、中学校1校であることから、「南幌小学校」「南幌中学校」で小中一貫教育を推進します。

(7) 小中一貫教育を推進する学校の形態

小中一貫教育を推進する学校の形態は、これまでの取組や小・中学校の立地状況や施設の状況等を踏まえ、施設分離型、小中一貫型小学校・中学校とします。

## 5 教育委員会の役割

小中一貫教育は、学校の教育活動全体に関わる取組であり、学校間の合同行事や交流イベントで終わらせることなく継続的に機能させていくために、学校と一体となって検証・改善を行い、より質の高い取組を目指します。